

令和元年 第9回総務経済常任委員会会議録

令和元年11月13日 議員控室

○事 件

町長報告事項

(1) 研修牧場施設整備事業について（農林課）

協議事項

(1) 新幹線要対策土処分地の現地視察について

○出席委員（6名）

委員長 三 澤 公 雄 君
横 田 喜世志 君
田 中 裕 君

副委員長 牧 野 仁 君
大久保 建 一 君
宮 本 雅 晴 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（1名）

千 葉 隆 君

○出席説明員（6名）

町長 岩 村 克 詔 君
農林課長 加 藤 貴 久 君
研修牧場係長 宮 下 洋 平 君

副長等 吉 田 邦 夫 君
農林課参事 荻 本 正 君
研修牧場係 高 嶋 一 登 君

○出席事務局職員

事務局長 井 口 貴 光 君

事務局次長 成 田 真 介 君

[開会 午前 9時58分]

【農林課職員入室】

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（三澤公雄君） おはようございます。少し早いですけど、揃いましたから、今気になる案件もありましたけど、それは調べて。

第9回総務経済常任委員会を始めます。委員長挨拶は割愛させていただきます。

◎ 所管課報告事項

○委員長（三澤公雄君） それでは、事件の方から所管課報告事項として、研修牧場施設整備事業について、農林課から改めて説明をお願いします。

○農林課長（加藤貴久君） 委員長。農林課長。

○委員長（三澤公雄君） 農林課長。

○農林課長（加藤貴久君） おはようございます。あの、9月の第8回総務常任委員会でご指示いただきました、質疑と答弁の精査につきまして、資料を提出させていただいてます。質疑と答弁で答弁精査というかたちで資料を3段階にまとめさせていただいてます。あの、担当の方から説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○研修牧場係長（宮下洋平君） 委員長。研修牧場係長。

○委員長（三澤公雄君） はい。係長。

○委員（田中 裕君） いや、その前にね、その前にちょっと聞きたいんだけど、今回委員長、会議録出てきたんだけど。これは非常にいいことだけど、今回に限ってこのようなものが出てきたという根拠について、どのような背景があるんですか。

○委員長（三澤公雄君） 前回、会議が終了する段階でですね、終わらせる段階で、いろいろ食い違いがあるし、新しい委員が来ている部分もあるから、一度議事録を起こして、これまでの質問と答弁の食い違いがあるのかないのかも含めて精査して、その大体の部分を今回提示して、確認をして前に進もうということになったんで、この長期間開かれなかったのは、この資料作りと確認のために時間がかかっていたという認識で皆さんいらっしゃったと思うんですけど。

○委員（田中 裕君） ということは、こうゆう答弁書というのは、得てして行政側が主導のものになってくるわけだね。そうするとこうゆう資料が出てきてるんだったら、質疑してる人方にも事前に私は配付して、あなたはこうゆうことを質問してますよねというふうにしてやった方が、より中身が濃かったのかなと思って、今あえて聞いたんですけどね。

○委員長（三澤公雄君） これは、記憶に基づいた議事録とかではないし、議事録要旨でもなくて、議会のシステムの中で録音し、文字起こしをした議事録なので、公式書類として残すときには、議会の中で署名をして残してますよね。ああゆう手続きはいると思いますけれども、会議の進行上で次の会議へ活かすためのものなので、田中委員の指摘も、なるほどという部分もありますけど、今回は、とにかく次のできれば10月中にという話もあった中で、この会議が、いろんな準備ができなかったという部分は、これを確認作業に時間がとられたということを十分理解してます。

○委員（田中 裕君） そっか。じゃあ、これからの委員会等々ではこのような手法でやるということで理解しておけばいいんですね。

○委員長（三澤公雄君） そうではないです。

○委員（田中 裕君） ないの。

○委員長（三澤公雄君） 今回の場合は特別に、こういった確認事項が必要だという委員側と、行政側との認識が前回の会議の主要であったので、こういった資料を作らなければいけないという方向に進んだんです。それと、議会改革の方向で、常任委員会の活動も、これから議事録をしっかりと残して公開するというかたちになってますから、これまでの総務常任委員会の発言の残し方とは、たまたま同じ時期に変わったというところもありますので、これから僕たちの発言なんかも、一字一句、一般質問とか本会議での会議と同じように、残されて公開されるってことを、やっぱり前回からそうゆうふうになってるんですけど、そうゆうところが変わったことは変わったんですけども、毎回こうやって議事録を起こしながら確認して前に進むということはイレギュラーなことだと思ってます。

○委員（田中 裕君） わかった。

○委員長（三澤公雄君） いいですか。

○委員（田中 裕君） 進めてください。

○委員長（三澤公雄君） それでは、前に戻りまして、牧場係の方から資料の説明をお願いします。

○研修牧場係長（宮下洋平君） 委員長。研修牧場係長。

○委員長（三澤公雄君） はい。係長。

○研修牧場係長（宮下洋平君） おはようございます。ただいま、課長から説明があったとおり、前回の第8回総務経済常任委員会の会議録につきまして、質疑いただいたもの、それから答弁をさせていただいたものを精査いたしまして、表のように整理いたしました。表の見方でありまして、左側の質疑に対しまして、答弁というのは、その当時に答弁した内容、それに、右側の答弁精査というところに、それに付け加えるもの、補足するもの、訂正するものといったようなことを、記載しておりますので、よろしく願いいたします。答弁と同様の内容のものにつきましては、

○委員長（三澤公雄君） マイク乗ってる？聞こえていますか皆さん。いいですか。

○研修牧場係長（宮下洋平君） 答弁と同様のものに対しましては、同左というふうに記載させていただいておりますので、精査したもののみご説明させていただきます。

まず1ページであります。大久保委員の役員構成につきましての返答。あと、会社が融資を起す際に保証人がどうなるかというような内容であります。役員構成については答弁はさっきも右側の答弁のとおりであります。融資に係る個人補償についての説明につきましては、株式会社青年舎と金融機関との協議事項でありまして、八雲町が答弁する立場にありませんでしたが、八雲町として融資に関する保証人になるということはありません。これまでの委員会におきまして、八雲町は国庫補助金の間接補助事業者および事業主体となります。八雲町畜産クラスター協議会の事務局を担っており、これらの立場から事業計画等につきまして把握していることから、その内容を答弁した次第であります。2ページにつきましても、同様の内容でありますので、割愛させていただきます。それで、3ページに進めさせていただきますが、3ページも大久保委員の整備内容について、土地等の買い取り、

賃貸の取得がどのような形態になるかとゆうようなものでありますけれども、こちらにつきましても同様に、施設用地等の取得につきましても、株式会社青年としての交渉事項であるため、町が答弁をする立場にありませんでしたが、同様に補助事業者、及び畜産クラスター協議会も事務局を担っていることから、用地の取得方法やそれに係る資金調達方法については把握しておりまして、その内容を答弁した次第でございます。続きまして、4ページであります。横田委員の、この事業の在り方といった質問であります。この事業の地域農業振興の寄与につきましては、第一に後継者育成と酪農家戸数の維持であります。青年舎で得た利益につきましては、現在町が行っている補助事業等を青年舎が担っていけるような仕組みづくりを現在協議しているところであります。この、町への農業施策に還元する方法につきましては、基金創設や財団の設立など、あらゆる方法を協議し、町の考え方を法人に伝えてまいります。次に、5ページであります。中段の大久保委員の、町が最大の出資者になっているというような、第3セクターという言葉の質疑であります。あと、決算書の公開というところでありますが、答弁では自治法上の第3セクターの扱いになるとご説明を申し上げましたが、議会への決算報告義務に関するところが地方自治法の規定でありまして、第3セクターが地方自治法の規定であるというわけではありませんでした。八雲町が民間団体と共同出資している会社であることから、いわゆる第3セクターと表現したところであります。答弁に誤りがありましたこととお詫び申し上げます。次に、少し飛びまして、7ページ目をお開き願います。田中委員からご質問がありました、資料の提示方法、提示の仕方です。前回の会議の資料の提示の方法ですが、資料につきましては、これまでも新たな資料をお示しできる段階でなったものを、その都度ご報告させていただいております。前回の会議では委員会の委員の変更があるということを知ったことから、これまでの委員会でもご説明申し上げた内容と、新たにお示しできる資料の説明を申し上げたところであります。資料の提示方法につきまして混乱を招いたことに対しまして、お詫び申し上げます。すいません。少し飛ばさせていただきます。12ページをお開き願います。田中委員からのご質問であります。この会議の進め方に対してのご質問ですが、この事業への町の関与としましては、建設事業、法人の収支シミュレーションなどは補助事業申請上、必要不可欠でありまして、会社に対して指導助言を行っているところであります。前回までお示した資料につきましても、補助事業採択に向けた町、もしくは想定する補助事業の畜産クラスター協議事務局としての資料であります。また、第3セクター等の答弁につきましては、官でも民でもなく、第3の手法で法人設立をしたとのご説明というふうにとらまえております。説明不足でありましたこと、申し訳ありませんでした。続きまして、14ページをお開き願います。こちら田中委員のご質問で、定款が定められて出資金を充てるということにつきまして、そこで契約書が発生するというような質問でありましたが、会社設立の件につきましては、20日の答弁のとおりであります。会社設立の準備段階から研修牧場の設立目的を出資予定者とは協議しておりまして、利益配分につきましては、一般的な株式会社のような利益を内部留保や役員配当していくのではなく、町の農業振興に還元するという方針で進めてきております。また、研修事業につきましても、5年10年と実施年数を区切って行うものではなく、継続的に実施していくことも確認されております。これらの方針につきましては、会社の株主総会の議決により決定されるものであります。町は今後も目的達成のために株主として会社の運営に関与してまいります。次に、16ページをお開き願

います。こちらは、田中委員の質疑であります。この会議への資料の提出の仕方ということのご質問であります。こちらにつきましては、委員会への定款の提出につきましては、6月27日に会社が設立しております。定款が認証されておりましたが、この8月の総務常任委員会の段階の際に、会社の設立は報告させていただきましたが、この際にですね、6月27日に定款をお示ししなかったことに対しまして、大変申し訳ありません、お詫び申し上げます。それと、先ほどから繰り返しますが、第3セクターという表現につきましては、途方公共団体が出資者に加わっている株式会社等の民間団体を、いわゆる第3セクターと呼ぶことから、株式会社青年舎が、八雲町が民間団体と共同出資している会社であるため、第3セクターというふうに表示したところでもあります。19ページをお開き願います。大久保委員のご質問であります。この事業を全額町費、国と町で支出するのではなく、いくらか法人の借入れを起こした方がいいのではないか。そういったものも活用した方がいいのではないだろうかというご質問ですが、現在国の補助申請に向けた事業シミュレーションを行っております。その中で施設整備費を全額、国費、町費で賄うのではなく、会社が一部負担をすることも検討されておりますことを、ご報告をさせていただきます。20ページをお開き願います。田中委員の代表取締役の件の質問であります。答弁と同様に、代表取締役は3人同等の立場を持っております。これは会社法の規定にのっとり、代表取締役は3人配置されまして、それぞれの業務を執行し、会社を代表して、契約や裁判などの行為をする権限を持っております。社長、副社長につきましては、株主総会で決議した会社内部での職責でありまして、会社の業務を執行する責任者と認識しております。次に、最後のページの22ページをお開き願います。田中委員の、契約書というような、契約書を交わさなければいけないのではないかというような議質問だと思っておりますけれども、町の立場としましては、青年舎と業務に関する協定書等の締結を検討することというふうに20日の会議では答弁しております。公的な役割を担う研修牧場として、業務提携に係る協定書や覚書等は、今後締結が必要と考えておりまして、今後検討をしております。会議録の内容につきましては、以上のようにしましたので、よろしくお願いたします。

○委員長（三澤公雄君） はい。ここまで説明いたしました。ちょっと休憩いたしまして、先ほどの火事の状況が報告が上がりましたので、事務局からお願いいたします。

休憩

再開

○委員長（三澤公雄君） 再開いたします。それでは今の報告に関して、改めてご意見、質疑ございませんか。前回の答弁で解釈が伝わらなかった、意味が伝わらなかったところを答弁精査というかたちで。あ、横田委員、手上げましたか。

○委員（横田喜世志君） 済んでからからでいいですよ。

○委員長（三澤公雄君） 答弁精査として改めて答えてますから、そのことについての疑義でも構いませんので、よろしくお願いたします。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。横田委員。

○委員（横田喜世志君） 前回ちょっときつく言いましたけれども、その中でもこれから協議していくとゆう答弁精査になってますよね。で、この田中委員についても大久保委員についてもそういうところが、この中でも気になるところです。何故かという、例えばそれを詰めていく中でね、それならやらないわと言われたらどうするんだろうと。で、前回出された経営シミュレーションの若干の間違えている部分もありますけれども、そこは、なしとして、これでいくと、11年目12年目というのはかなり、順調にいけばかなり利益が出るわけです。それで反面リスクがどの程度見込まれているのかという部分もあると思います。普通の株式会社なり、そういう経営者感覚でいけば内部留保がなければ、ある程度の内部留保を確保したいと。そこでこの中に見ても分からないのは、どの程度内部留保をしておくのかとゆう部分が全く分からない。そういう部分がまだ検討段階なのか、はっきりしているのか教えていただければ。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） はい。今ですね、横田委員から話がありました。確かにですね、私も今回ですね、初めてこの委員会に参加をさせていただきますけれども、委員の皆様ですね、今大変研修牧場に対しまして、貴重な意見をいただいているということで、私も町長という立場とですね、代表者の一人という立場で答弁をさせていただきますけれども、皆さんのですね、期待に応えられるような、そんな答弁にしまいたいという思いをですね、さらに身を引き締めて取り組むということで今考えております。基本的にはですね、私は当初ですね、資本金並びに実施設計をですね、予算を通していただきました。この件につきましては、本当に議員の皆さんからですね、多くのそんなに質問もなくですね、研修牧場については、これからの八雲町の農業の担い手対策としては有効であろうということで、承認をいただいた。しかしながらですね、進むにあたって、なかなかこの姿が見えなかったということでですね、大変委員の皆さんまたは議会の皆さんにですね、心配をかけたのかなという思いで、大変ですね、申し訳ない。そんな思いであります。今横田委員からですね、内部留保等々の意見も出ましたけれども、まだまだですね、この牧場は今実施設計が始まったばかりであります。この総体の予算枠もですね、どんどん私は今、切り詰めていますので、変わるものと思っております。さらにですね、このクラスター事業についても、来月にはですね、国から内示がくるものとゆうことで、まだまだこれも想定して進んでいます。そして今月の29日にですね、やっとその今回全国から6団体、北海道から1団体ということで八雲町がバイオマス都市構想にですね、やっとな認可をいただいて、今月の29日に伊藤副大臣様からですね、証明書をいただくとゆうことになると、この牛糞バイオマスがですね、4分の3の補助をいただくとゆうことで、まだまだですね、我々としては今鋭意努力をしているところでございます。さらにその先月の末にですね、研修牧場の企業版ふるさと納税も、国から良いでしょうということで内諾をいただきましたので、これもですね、来年の4月1日から企業版ふるさと納税ですね、企業が9割損金で落ちるとゆうことで、これも来年に向かってはですね、今北海道から今のところ八雲町だけということで聞いておりますので、この企業版ふるさと納税もですね、大いにこの研修牧場には投資ができるものと。さらにですね、皆さん私がいつも答弁しているとおりでですね、農業が発原点で、水産、林業、観光、産業ということで、この4つの産業に対しても企業版ふるさと納税を使っていけると。ただし、この企

業版ふるさと納税の認証をいただくには、委員のですね、議会の承諾を得て町がお金を出すものということですので、これについてもですね、まだまだですね、我々はもし企業版ふるさと納税が進むことであればですね、その部分を大いにですね、多くの企業からですね、ふるさと納税をいただくということを考えております。

議員皆様ご存知のとおりですね、この企業版ふるさと納税については、返礼品がなしでありますので、いただいたお金はすべて使える。ただし、研修牧場、国が認めるものということになってますので、これはもう国として認めた、研修牧場はいいですよということでもありますので、この企業版ふるさと納税で集めたものに対して、例えばこの研修牧場で集めた場合には、研修牧場で使いなさいよとゆうことでもありますので、その辺はですね、また議会の皆さんにですね、委員の皆さんにも理解をいただいて、町から補助を出すとうことになろうかと思ってます。これについてもですね、まだまだどれくらい集めれるものかというのは、まだまだ私たちですね、初めて取り組むことでもあります。ただ、この研修牧場はあくまでも母体とすると、しっかりと利益で母体を作って、その利益で担い手対策、さらに農業が振興していくということで、本当にこの八雲町にとってですね、この規範になる産業の本当の1番目の農業について最初にやりたいとゆうことでもあります。さらにですね、何回も言いますけれども、農業、漁業、林業、商業もやっていくということで、我々本当にこの、今人口がどんどん減っていく少子高齢化の中で、我々が経験のしたことのない、我々の進んでいくとなると、今までやったことのないことにですね、私は挑戦してみたいとゆうことで考えています。このあいだの議会でもですね、今日千葉議員さん来てますけれども、千葉議員さんからもですね、町長この総額の予算どうなんだという意見がありました。多分千葉議員さんもいろいろ質問したかったんだろうと思いますけれども、私もですね、総額の予算がまだまだ分かってませんので、概ねお伝えいたしました。ただ、多分千葉議員さんですね、町長やるんだから、まあ、なんとかやるんだろうとですね、私をある程度信用してくれてるのかなということでもあります。ただ、今本当に議員の皆さんからの意見というのはですね、私はしっかりと読ませていただきましたし、きちっとですね、胸に入れながらこの研修牧場は進めてまいりたいと思っておりますし、皆さんが不安を思っていることはですね、本当にその3人の代表で、町と農協と農業者ということできちんと進めると。さらにですね、今回1番のですね、私が反省しなければならぬと思ってるのは、今日三澤委員長さん来ておりますけれども、農業だったということもありですね、たまたまいろんな相談を議員もありですね、相談をさせていただいたということがですね、ちょっと皆さんのいろんなことがあったのかなと。ただ、できればですね、三澤委員長さん含めてですね、もしも議会の中で誰かがですね、この研修牧場の中の、これを委員会で常時説明するということは、大変難しいことでもありますので、もし委員の中から誰かがこう来てですね、もうちょっと前向きな意見ですね、いただければ牧場経営とすればですね、大変その議員の皆さんにもですね、もっともつとですね、理解をいただけるんじゃないのかなと。決してですね、民間企業とありながらですね、閉鎖することなく、どんどんオープンにしながらですね、やっていく。ただ、この民間のこと、また国の政策並びにですね、いろんな変化する度にですね、今後もですね、良い方向に変化するということでもありますので、予算的なこともどんどんですね、変化していく。ただし、変化していくということですね、委員の皆さんには理解していただきたいな。さらに、我々としてはですね、決してこの農場がですね、経営が駄目になるような、そんな

ことは思っていないし、さらにその農業がですね、これによってですね、活性化できると、私は確信していますので、その辺もですね、また理解していただければなど。さらに、皆さんから今いろんな不安や意見がありますけど、前向きなですね、こんなのを取り入れたらいいんじゃないとか、こんなのがいいんじゃないかという意見が、どんどん言っていただきたいと思います。横田委員のですね、説明になったかどうかは分かりませんが、私は皆さんの委員からですね、いろんな質問を受ければですね、私が答えてまいりたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○委員長（三澤公雄君） はい。

○町長（岩村克詔君） 答えになったかな。

○委員長（三澤公雄君） いいですか。

○委員（田中 裕君） なってないな。

○委員長（三澤公雄君） 他の意見でもいいですよ。どなたか。

○委員（田中 裕君） 横田さんいいの。はい。

○委員長（三澤公雄君） はい。田中委員。

○委員（田中 裕君） あの、今町長の答弁を聞いていて、まあ何点かちょっとクエスチョンマークのところがあるんだけど、それは次の議論にしていきたいと思うんですけど、町長このね、町長の所信表明で、1千万円出資して、農業振興を図りたいということで。所信表明って、執行方針か。執行方針だね。まあそれで1千万円の出資をしたい。そして、農業の振興を図りたいということで、私も当初は賛成した一人なんです。1,000万円の予算で農業振興が図れるということは、諸手を挙げて賛成をした一人だったんですけど、そこでね、じゃあ運営をして行くということになったら、ちょっと私は無理な問題が噴出してきただから、まあいろんなことを聞いて今まできたわけなんですよね。で、その事務方に聞きたいんですけども、今回の資料はすべて出し尽くしたということでもいいのかな。これからもっと資料が出てくるおそれがあるのかな。その辺我々どうとらまえておけばいいのかな。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） この資料についてはですね、あくまでも研修牧場の中身についてはですね、資料として出すのか出さないのかは別問題として、もしも聞きたければどんどんオープンにします。もちろん。ただし議員の中でですね、議会の中で揉むものか揉まないものかといえば、ちょっと私もですね、はっきりしてません。というのは、別に隠すものでもありませんので、委員の皆さんがですね、知りたい情報ならどんどん出していきたい。ただし、変化はします。先ほど言ったとおりですね、実施設計にあたって初め、当初話をしますと、農協関連の設計屋さんが建物だけで50何億ということが出てきました。これは大変だということになりですね、民間の今八雲でやっている、学林ファームさん、さらにスプライズファームさん、いろんなですね、話を聞きながら、違うなど。ということで、どんどんどんどん設計屋さんは決定して進めてますけども、今でもですね、設計屋さんともう少し安くないのかとゆうことをどんどん進めながら、さらに農業の農家の方々を使いやすいように、町長そうゆうけど、金削ってももうちょっとこの辺使いにくいぞとか、これから考えたらこうゆう方がいいぞということで、変化をさせながら今実施設計をまとめているところがあります。それと、この社長についても、私は今代表社長をやっていますが、ゆくゆくは農家の

方が社長か農協の方が社長をやるとというのが筋だろうと、私は思っていますので、その辺もですね、今は私が社長をやっていますが、早い時期で、どの時期でですね、私が代表者から抜けるというのを考えながらですね、農家の方々と今話し合いをしていますので、どんどんこの中身もですね変化すると。変化するということはですね、この研修牧場がきちっと運営ができて、さらに農業振興が進むような、そんな施策でありますので、田中委員さんがおっしゃってるとおり、役所はあまり変化しないんですけども、これは民間企業でありますので、どんどん変化していくということですね、ご理解いただかないと、我々としてもですね、一回一回例えば、このあいだ町長研修牧場で30億と言ったのに、なんだ25億になったのかと。なんだ22億かと。それで借入金も3億って言ったけど、2億で済んだのかとといったことも出てくるし、逆にさっき言った企業版ふるさと納税が進むのであれば、町の持ち出しを10億とか15億の方が研修牧場にとって、集めれるのであればだよ。可能性があるんだったら、逆に議会にお願いして、ここの常任委員会にお願いして、15億くらいちょっと出してくれと。その代わり集まったときには15億を出してくれと。それはあくまでも企業版ふるさと納税というのは、例えば田中三光さんに、おお、いい。分かった分かった。1億出してやると。それで集まったお金が、ただしこの一般のふるさと納税は枠がちょっと広いんですけど、企業版ふるさと納税というのは、この研修牧場に対して国が認めたということありますから、これに特化したものでなければならぬので、あくまでも研修牧場の方に補助するということになるので、それも我々も今のところですね、先ほども言ったけど、今やっと内示をもらったので、12月中に、さらにこれは内閣府でありますので、内閣府とですね、進めながら、どこまでというのをですね、やりながら4月に向けてやっていくということありますので、変化するというだけではね、良い変化と思っていただければと思います。

○委員（田中 裕君） はい。委員長。

○委員長（三澤公雄君） 田中委員。

○委員（田中 裕君） あの、町長変化するという言葉を使って、これからまだ流動的な要素がありますよということだと思いますけれども、

○町長（岩村克詔君） そうです。

○委員（田中 裕君） ただね、我々議員としてさ、この事業を成功するにあたって、ゴーサインを、すべての面でクリアしたと。じゃあこの事業はゴーサイン出そうとゆう自分でそうゆうものを知りたいがために言ったことであって、町費が負担するということは、町長そうゆうことだと思うんだよ議員は。だからこの事業を、じゃあやらせようという、そうゆう資料として私は聞いたのであって、これから変化していきます変化していきますって、じゃあ最初にゴーサインを出したと、そしていろんな問題がクリアしたと、だけでもその都度変化してたら、我々の判断も狂ってくるわけだよ。当初の計画と最後になったら違うんでないのかってゆうふうなこともあり得るわけだよ。常に変化するって。そうでなくして、やはりこの事業を進めるにあたって、すべての問題点をクリアしていったと。じゃあ次に議会と議員と町長と一緒にこの事業を成功していくということになればね、そうゆう、私議員としてそうゆうきちとした資料が欲しいわけさ。

○町長（岩村克詔君） できない。

○委員（田中 裕君） じゃあ、今できないんでしょ。

○町長（岩村克詔君） できないよ。

○委員（田中 裕君） できなかつたら、我々もじゃあ、どうすんだよってことになっていくんだよな。判断材料が。だから私あえて聞いて、もう資料がないんですねって聞いたのがそこにあるんだよね。議員さん皆さんそうじゃないのかな。いろんなことクリアしてきた、じゃあこの事業やろうや、やらせようやっていってゴーサインを出したって、そうゆことを私は求めたいんだよね。

○町長（岩村克詔君） できない。委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 田中委員さんですね。この研修牧場。

○委員（田中 裕君） ちょっと待って町長。

○町長（岩村克詔君） はい。

○委員（田中 裕君） この事業を成功するにあたって、私も賛成なんだわ。だけれども、先ほども言うように、運営のことでいけばいろんな問題点がクリアできないものがあるから、あえて聞くのであって、反対しているんじゃないということ为前提として答弁して。

○町長（岩村克詔君） 分かった。

○委員（田中 裕君） なんか、町長の答弁を聞けば、田中お前何反対してるんだよ。というようにしてとらまえられるおそれがあるからさ。行政というのは私はそうあるべきだと思うんだよ。町長今やるよといったのは民間の手法だと思うんだよ。我々町民の財産を使って事業遂行するにあたっては、やっぱり町民に対するきちとした説明も、私はするべきだと思うの。だからあえて聞いてるのであってね。その辺誤解しないで答弁してください。

○町長（岩村克詔君） はい。分かりました。すみません。委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 田中委員からですね、反対するものでないということでしたので、ただ、多分ですね、今研修牧場についての事業というのは、八雲のですね、ある程度理解できてるんじゃないのかなって私は思ってます。あくまでも今やる牧場の規模というのは八雲にとってどの位置なのかといたら、別に最大大きいわけじゃなくてですね、今現存としてですね、これくらいの牧場が、東野に1戸、野田生、さらに学林さん、●●さん、平野さんも近い、景浦さんもそれくらいの規模でやっているとなるとですね、八雲のこの農業の事業とすれば特段特化したことではないということ私を私は理解してますし、さらにですね、この今のこの農業の事業をですね、大変田中委員さん不安で心配してると思えますけれども、この事業については国が認めるということでもありますので、事業形態というのはですね、お金の出るところはですね、政策金融公庫、農林公庫でありますので、ここが認めるということは、ある程度事業とすれば、合致しているということも我々もですね、国の、道のハードルを越えながらきておりますので、委員さんの心配するのは十分分かります。だからですね、どうかですね、一回一回説明は難しいので、田中委員さんですね、どうかのそ研修牧場のですね、来るたびに聞いていただいてですね、ご理解していただければなとすごく思っています。

○委員（田中 裕君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 田中委員。

○委員（田中 裕君） 理解するようにして、私今まで自分でも頭の中で整理してるつもりなんですけど。その都度例えば第3セクターなんて、前回の委員会で第3セクターって言

ったから、ちょっと待て最初第3セクターって言葉使ってって、まあそうなればこれは触れませんが、変化することはいいいんだわ。だけでも町費を町民にある程度7億なにがしの財政負担が生ずるということになれば、我々個人のお金を使って事業をしてるんじゃない。町費を導入するということになると、やはりその辺の精査はね、私は議員としてすべきだと思う。自分で理解しようと。だから聞けばいろんな話があちこち飛んでくるような答弁、その答弁が正しいんだろうけれども、私とかみ合わない、私が理解できないような字句が飛びかっているもんだからね、それを私は埋めようとしてあえていろんな質問をぶつけてるのであって。だからね、じゃあその変化していくって、町長さっきから、当初の計画とどのように変化していくんだらうか。金額で今言える？もうそろそろこの議論、終了させなければならぬ時期にきてると思うんですよね。その辺ちょっと。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 変わらないのはですね、先ほど何回も言ってる、農業を基盤として搾乳業をやって、その利益で農業振興していくということに変わりない。その規模とすれば、搾乳440、育成600と。それは変わらないと。それでバイオマスプラントを持つと。このバイオマスプラントもですね、このあいだ議会からも承認されましたとおりですね、北大の研究所も入るということで決まっております。これには変わらない。ただし、肥料についてはいかに安く良いものを作るかということをやっていますので、それは変わっていくということではですね、理解していただきたいと思っておりますし、さらに、変わっていくということは、良く変わっていくと求めていただきたいと。ただし、なかなか議員の中で納得いかなければですね、どうかですね、来るたびに研修牧場の収支についてもどんどん今変わっています。確かに一人一人雇うにしてもですね、変化していきますので、それはもう収支についてもどんどん変化しますし、我々も変化します。近隣についてもどんどん、これ日々変わっていきますから、それはどんどん変化しながら収支もやるとゆうことになってますので、それをですね、決まったとおりやっていますから、そのとおりにならなかったからどうなってんだと言われればですね、ちょっと民間のそういう民間経営、乳価も変わりますし、輸入する肥料等もどんどん変わってきます。それは我々が想定している、厳しく見ながら収支回しています。どこの民間企業も収支回すときは厳しく見ているということでもありますので、その辺についてはですね、良く変わっていくということで理解していただければなと思います。

○委員（田中 裕君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 田中委員。

○委員（田中 裕君） 理解しようとしてるんですけども。じゃあ単純に聞きます。この事業費は総体でいくらを想定してるんですか。最終事業費。これは前回出てきている事業費があるんですけども、この事業費も全体として変わってくるという押さえ方でいいんでしょうか。建設事業費ということで。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 変わってきます。それで、今のところ50億前後とみてます。ただしこの建築費についてもですね、変化はすると思っています。ただ、今幾分良くなっているのはですね、オリンピックも終わりですね、鉄骨、●●ボルトといいますけれども、このボ

ルトのですね、この辺もですね、我々の調べるとおりの、幾分軟化していると。鉄骨もですね、幾分下がってきているということを考えると、建築コストも少し下がってくるのかなと。これは大きくなればなるほどですね、何千万たらずぐに変化します。さらに、入札でありますので、入札でどれくらい落ちてくるのかということも想定もできます。そしてこれから今これ始まる時のですね、牛の単価についてもですね、大変一番高いときですね、今から1頭、三澤議員が一番知ってると思うんですけども、20万以上の100万もしたというような時代もありましたけれども、今幾分下がっておりますので、そうすると400頭買うにしてもですね、莫大な金額が変わってくると。今20万程度下がっていますけれども、実際買うときにどれくらいの推移をするか、さらに肥料についても変化しますので、こんだけ大きくなればですね、ちょっと違うとですね、何千万、億ということで、変化していくというのは、変わっていくというのはありであります。ということをご理解いただければと思います。

○委員（田中 裕君） 大体そしたらこれは37億ですよ。前回出てきたのは。

○町長（岩村克詔君） 俺知らないこと言ったな。

○委員（田中 裕君） だから混乱するんだよね。町長が最初から出てきて答弁してくれれば。

○町長（岩村克詔君） すみません。

○委員（田中 裕君） 最終結論になってきて、町長が答弁してくれば、また話しがややこしくなって。

○町長（岩村克詔君） ややこしくならんって。

○委員（田中 裕君） じゃあ俺たちどうすればいいのよって。わかるんだけども。そこでね、これそしたら最終50億くらい想定されるというとらまえ方でいいんですか。

○町長（岩村克詔君） いいよ。

○委員（田中 裕君） いいの。じゃあ、この資料の37億というのはこれ破棄になるということでもいいの。

○町長（岩村克詔君） これは建物。

○委員（大久保健一君） これは建設に関しての事業費であって。

○委員（田中 裕君） 総事業費という私はそうゆうとらまえ方をしてるんだけども、そしたらとらまえ方してるんだけども、私の考え方が間違えてるのかな。

○町長（岩村克詔君） これ建物だけでしょ。機械と。

○委員（田中 裕君） 町長、前の資料見てるの。

○町長（岩村克詔君） 見てるよ。

○委員（田中 裕君） 37億7千万円というのが総事業費。

○町長（岩村克詔君） 違う違う。建築事業費でしょ。

○委員長（三澤公雄君） その資料と一緒に計算の、経営シミュレーションの資料が。その資料の方が割と細かく建物とか施設とか書いてるんで。

○委員（田中 裕君） この数字はじゃあ、これが動くということでもいいの。

○委員長（三澤公雄君） これに沿った書き方はしてるんだけども、もうちょっと細かい数字が、この表ありませんか。研修牧場スケジュールと一緒に前回の資料で配ったのかな。その右下の方に書いてます。だからこれが総合計が48億と数字がありますけれども、それを

大体 50 億と町長が答弁して、それから圧縮をかけているので動くという今やり取りがお二人のやりとりであったのかなと。

○委員（田中 裕君） それでね、先ほど町長ね、企業版のふるさと納税を導入したいっていうんだけど、それも私始めて今聞いたんだけど、それは町長の答弁を聞けば使ってもいい費用ですよっていうことだと思うんですけど、この辺の議論というのはまだ、当然国でも企業版ふるさと納税やるということになればその辺の議論というのはまだされてないんですけど、これはいつの時点で。来年度あたりははっきり見えてくるんですかね。この辺は。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに一般のふるさと納税は、皆さんご存知のとおりですね、去年は 36 億とゆうことでやっております。ただ今年もですね、多分 36 億まではいかないけれども、相応のものはいくだろうと今想定をしています。ただ、この企業版ふるさと納税については、なかなかですね、実例がないということで北海道もこれを大変ですね、これを今鈴木知事さんですね、何とか使えということもありですね、東京でプレゼンをしてきました。これはなかなか我々も見えてませんし、どんなふうになるのかというのは想定はできません。ただし、自分とすれば使えるものであればですね、どんどん使った方がですね、いいという考え方をしております。ましてこの八雲町はですね、企業の繋がりが大変深い、他の町に比べたらですね、大変羨ましい町と言われておりますので、企業の方もいいと、八雲町がいいのであればどんどん使いたいと。ただ、全容についてはですね、先ほども言いましたけれども、今年の 12 月にですね、正式にプレゼンをしてくと。国に対してもう一回研修牧場とですね、サーモン事業を検討しながら持っていくと。それで認められれば、議会の皆さんにも説明をして企業版ふるさと納税の募集に行くということになると思っています。はい。

○委員（田中 裕君） はいはい。いいですよ。

○委員長（三澤公雄君） 田中委員。

○委員（田中 裕君） いいよ。

○委員長（三澤公雄君） いいですか。他に。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） この資料の中で、会社が一部施設整備費を全額国費町費で賄うのではなく、会社が一部負担することを検討されているということが書いてるんですけど、これはどれくらいの会社負担で考えていこうとしてるんですか、今。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 当初ですね、この皆さんに説明をしたのは、7 億ちょっとくらいと、実質ですね、町の負担金は 7 億ちょっとくらいでいくだろうということで想定しましたけれども、ただそのいろんなこの研修牧場に対する北海道でも国でも大変注目を浴びていると。とくに全道の中でも道東道北の方もですね、八雲町の研修牧場については大変注目を浴びているということで、国もですね、後押しがあって早く進み過ぎているということも一理

あつてですね、大変町の負担も増える可能性も出てくるものですからその分についてはですね、我々とすれば研修牧場で借入れを起こしても先ほど横田委員さんもですね、収支見ればいいですよということをおっしゃるので、その辺我々も掴んでおられますので、2億3億はですね、研修牧場で持ってもいいのかなと思ってますけれども、ただ、ここに来てですね、企業版ふるさと納税で、10億も15億も集められるのであれば、それはすべて町費で持った方がいいだろうということで考えています。ただし、その集まったらということもありますので、ということでご理解いただければと思います。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） ごめんなさい。前に聞いたのかもしれませんが、初めてかもしれませんが、道東とかでこのような研修牧場ってされている実例があるって話を聞いてたんですけども、そちらの方とすれば全額国と町で設備を賄って作ってるんですか。それとも、どうゆう感じでやってるんですか。その実例を聞きたいです。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） これは大概の地域は農協が主体でやっています。町がサポートするという、サブで押すという感じでありまして、ほとんどは農協と農家がやっているとゆうことであります。ただし、それは大概ですね、単協。八雲でいうとね、新函館農協と、大変大きな農協で、なかなか単協ではありませんので、難しいところがありますので、ただ、そのこの農業の担い手対策、さらに農業振興するにはですね、町もですね、汗をかいてやった方がいいだろうとゆうことで、議会の皆さんにですね、理解をいただいて進めるということで、ください。

○委員長（三澤公雄君） 議事録が残りますので、引き続き農協への発言は注意した方がいいですね。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） まあ、分かりました。あとですね、この担い手対策が必要だということは、委員会のメンバーも他の人たちも議員も、それは共通した認識で反対する人は誰もいないと思うんですよ。ただ、設備投資を全額やって資本も過半数町が持って、その会社を新たに設立してという事業計画自体が、公共性として税金の使い方として、正しいのかどうかということだけが引っかかっているんだと思うんですよ。それで考えるのであれば、町長がさっき言ったように大きな農家はもう町内に存在しているので、そこにある程度資本を投下してそこに委託してもらおうとかということにも担い手対策だけを見ればそれも可能だと思うんですよ。そうじゃなくて会社を設立して新たな場所にかんりの金額を投下して、それで新たな法人を作ってやるという最大の目的というか、その違いというのが、何でこの方法を選択したのかということなんでなんですか。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議事録は残るので、夢を語れば怒られますけれども、まずはですね、この上八雲と地域の方々がですね、段々担い手がほとんどいなくなるとゆうこと。ましてち

よっと地域的には離れているということになるとですね、なかなかそういうこともどんどん衰退していくということも一つありますね、たまたま農家の方々が皆協力してくれるとゆうことになりました。これで、町とすればですね、ここでまずはスタートだろうと。それでここは言葉が悪いけれども、第一牧場とそして今度は町が支援をするのではなくて、この研修牧場がね、第二第三の牧場、さらにこれから家族的な農家の方がですね、今一番困っているのは、ヘルパー事業とかはですね、なかなか進まないということになると、この研修牧場はですね、ヘルパー事業並びにですね、コントラミたいなですね、そんな仕組みもやりながら家族農業にも手当てすると。さらにもし家族農業の方々が、家族ともどもですね、その土地場所がなくなる。使わなくなるときにはその場所をですね、なかなか普通の牧場が買って、担い手対策とは難しいものでありますけれども、それをですね、研修牧場が買いもとめて、担い手を入れて家族的な農業も継続させていくということも一つの狙い。さらに大きい夢を言うそうですね、私はやはりここにある程度ですね、今は年間自分の記憶ではですね、4万トンくらいが牛乳として出荷しておりますけれども、一時最大6万トンまでいったと。最低ですね、この6万トンまで戻したいと。それでこの6万トンに戻すときにはですね、またこれ議事録に残るから喋りたくないんだけど、牛乳工業も持ってきたいという、そんな夢もあってですね、特にこの渡島ですね、八雲町付近、長万部、さらに今金、日進峠等もありますけれども、この辺も酪農がありますので、その辺はですね、これから第二第三の牧場も含めて、6万トンくらいはですね、牛乳の生産をしながら、近いところにですね、牛乳の工場ができれば、八雲の活性化になるというのもですね、夢でありますので、議事録に残さないようお願いいたします。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） そこら辺がちょっと引っかかっているんですね。町長の答弁にもあったとおり、個別というか小規模、家族で営んでいるような、小規模農家の救済的な措置なんじゃないかと。それであれば、税金をそこの農家だけに投下するというのは、公平性からいったらどうなのかというのがちょっと引っかかっているんですよ。それで、町長の話でいけば、夢を語っていただきましたけれども、第二第三のということになると、こういう家族的経営を行っている農家の集約を、また、税金を使ってこのような農場を作っていくという考え方をしているんですかね。そうであればもう既に自分たちでやっている人達とかの公平性で考えると、理解を得られるのかというのがすごく心配なんですよ。

○町長（岩村克詔君） 委員長。

○委員長（三澤公雄君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今、町のお金を使ってやるのはこれが農業であれば、酪農であればね、これからまた畑作とかいろんなことも考えなければならぬ部分もありますけれども、酪農であればこれが町費で使う最後でしょと。あくまでもこれからのやる部分については研修牧場が半公共的な役割を果たしていくべきと考えております。さらになんでその公共的に町が出しているものかという判断はですね、やはり我々としてもしっかりとやっていきたいと思っております。さらにこれは、北海道も国もですね、この仕組みで我々が説明しているですよ。公費もいいですよということ言われてますので、公共的なのということで認めていただいているとゆうことをですね、我々も、ただ、今大久保委員さんおっしゃっていると

おりですね、今もですね、ある農家からもですね、出資したいとか一緒に入りたいという方も今来ております。しかしながらですね、やはりこれ立ち上げてからの話になりますので、それはもうちょっと待ってくださいよと。まださらにですね、民間企業の大手のですね、民間企業の方からもですね、牧場に出資したいと話もきてますが、もう少し待ってくれと、もうちょっと立ち上がって進んでからとゆうことを話してますので、公共的な部分というのは大いにあると思っておりますので、ご理解をいただきたいなと思っております。

○委員（大久保健一君） さっき、第二と第三のというようなこと言わなかったですか。

○町長（岩村克詔君） 言ったよ。第二第三もこれもあくまでも町でお金を出すということではありません。あくまでも研修牧場が利益の中で青年舎が進んでいって、第二第三の牧場をやるということはあるだろうと。

○委員（大久保健一君） 大関以外にということ。

○町長（岩村克詔君） そうそう。上八雲以外にということ。例えば今困っている地域があれば、そここのところに行って、半公共的なことで、その地域の人たちは個別の農家で進めるのであれば個別の農家で進んでいくし、もしまとめるのであればまとめて進んでいく。さらに今さっき言った、バイオマス●●構想で、牛糞バイオマスは認められましたので、これから今まだ農家があつて、まだ牛糞処理に困っている地域、それについてはこの研修牧場がそこでバイオマスプラントを作って集約しながらやっていくということも公共的にやりたいと。というのはですね、まだまだ構想であります。ただ、先ほど言ったとおり、この牧場が運営できないと夢の夢になりますので、しっかりと経営していきたいというのが、一段階あります。夢は夢でありますので、お願いします。

○委員長（三澤公雄君） ほかに。なければ、現状の青年舎の進んでいる状況は、理解されたという認識で常任委員会としてはいいでしょうか。そうすれば、次また新しい動きがあつたときは、引き続き速やかに情報の共有の場を作っていたきたいということで、そういう確認でよろしいですか皆さん。

○町長（岩村克詔君） 私が出てきた方がいいでしょ。

○委員（田中 裕君） 出た方がいいね。

○委員長（三澤公雄君） やはり、夢をポイントポイントで語られるのも、効果があつたりなかったりもありますけれども。

○町長（岩村克詔君） その都度私が出てきて、説明したりですね、だから先ほど言ったとおり、委員の皆さん、もし心配であればですね、私のところに聞きにきていただいても良いんでございますので、横田議員はいつも新聞で来ますので。

○委員（田中 裕君） 個人的なことは、委員会としてどうするのかということ。

○町長（岩村克詔君） その時は来ます。

○委員長（三澤公雄君） 委員会の場を尊重して。

○町長（岩村克詔君） はい。分かりました。

○委員長（三澤公雄君） では、町長の方からなるべく情報提供ができる機会を設けていただきたいということで、ここまでの上八雲青年舎に関する現状認識を共有できたということで、今日の常任委員会は閉じたいと思います。ありがとうございました。

○町長（岩村克詔君） ありがとうございました。

【農林課職員退室】

◎ 協議事項

○委員長（三澤公雄君） それでは、事件は終わりましたので、協議事項で、新幹線の要対策士の処分が始まりました、改めて。それで、大久保委員の方からも、今の機を逃さず現地視察したらどうだろうか。という意見が出ましたので、それで皆さんにお諮りしたいんですけども、現地視察を、事前にちょっと調べましたらですね、18日だったらいいよと。この週なら。それ以降ならまた協議しなければという下案はできてますので、今日もし皆さんのご都合が18日でつくというのであれば、なるべくこの日でやっていきたいなど。参加人数があまりにも少なかったら、見送らざるを得ませんけれども、文厚の委員にも声を掛けてやっていこうと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

○委員（田中 裕君） 20日の日に文厚の病院のあれあるんですよね。それにくっついて。

○委員長（三澤公雄君） あれは午後の日程になっているから。

○委員（田中 裕君） 午後の日程だけでも。

○委員長（三澤公雄君） そしてその後に懇親会を設置しているみたいなので。

○委員（田中 裕君） だからその前にやるという。

○委員（牧野 仁君） 20日の午前中ということですね。

○委員（田中 裕君） そしたら我々1回出てくれば。

○委員長（三澤公雄君） 18日の週は18日しか空いていないということが今分かっています。

○委員（大久保健一君） 受け入れる側でってことですよ。

○委員長（三澤公雄君） 相手側が。だからこれが駄目であれば再協議ということで、視察だけはやりたいという旨をここで決めて、後日日程を決めるというかたちになりますが、今下調べの段階では、18日の午後から、2時で現地視察はできるという向こうの意向は聞いてますけれども。

○委員（田中 裕君） そしたら都合の悪い人は欠席してもいいかな。

○委員長（三澤公雄君） いいですいいです。

○委員（大久保健一君） あとほかの施設というのは、例えばトラウト施設だとかは全然なんも進んでないということですか。

○委員長（三澤公雄君） まだ案だけですね。全く。例えば熊石なら予定地はありますけども、そこで工事が進んでいるという状況ではないです。

○委員（大久保健一君） ではない。

○委員長（三澤公雄君） はい。

○委員（田中 裕君） トラウトサーモンか。

○委員長（三澤公雄君） 実はそのトラウトサーモンの。

まずはちょっと新幹線の話。どうですか18日。進めましょう。

○委員長（三澤公雄君） じゃあ進めるということで、事務局よろしくお願いします。

休憩

再開

○委員長（三澤公雄君） 再開します。

はい。事務局。

○議会事務局次長（成田真介君） 当日の出欠なんですけれども、この場で決めていただくと助かります。

○委員長（三澤公雄君） 18日の出欠。

○委員長（三澤公雄君） それで、長靴。

○議会事務局次長（成田真介君） おそらく、作業服と長靴は持参になるかと思えますけれども、詳細が決まりましたら、案内文書をファックスで流したいと思えますので。

○委員長（三澤公雄君） そしたら欠席は。

○委員（牧野 仁君） 僕ちょっと出れない。申し訳ない。4時に函館で会議があるから、ちょっと2時なら。午前中ならいいんだけど、午後なら無理だ。

○委員（大久保健一君） いや、まっすぐ走れば間に合いますよ。

○委員（田中 裕君） はい。閉めてください。

○委員長（三澤公雄君） はい、それでは今日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

[閉会 午前11時59分]